

(学報)

博士學位論文

論文内容の要旨

及び審査結果の要旨

第13号 (2020年4月)

長崎純心大学

序

本号は学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号）第8条による公表を目的として、2020年3月17日に本学において博士の学位を授与した者の論文内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を収録したものである。

学位番号に付した甲は学位規則第4条第1項（いわゆる課程博士）によるものであり、乙は学位規則第4条第2項（いわゆる論文博士）によるものであることを示す。

氏名(本籍)	金成根(韓国)
博士の専攻分野の名称	博士(学術・文学)
学位記番号	甲第35号
学位授与の期日	2020年3月17日
学位授与の要件	学位規程第4条1項該当(課程博士)
学位論文題目	日・中・韓におけるカテキズムの受容と変遷 —3国におけるカテキズムの比較を中心に—
論文審査委員	主査 教授 片岡 瑠美子 副査 教授 長野 秀樹 副査 教授 椎葉 富美

《論文内容の要旨》

【カテキズムの概念】

カテキズムとは、キリスト教の教えを説くテキストのことである。同じ意味で、「ドクトリナ」が用いられることもある。そもそも、カテキズムはテキストの意ではなく「信仰教育」という意で用いられていたが、16世紀の宗教改革とトリエント公会議を経て、今日でいう「信仰教育のテキスト」すなわち「教理書」という意が加わった。その後、イタリア・ドイツなどの北ヨーロッパでは「教理書」という意で「カテキズム」が用いられるが、ポルトガル・スペインなどの南ヨーロッパでは「ドクトリナ」が用いられるようになる。両語は日本に伝えられ、カトリック教会の用語として使用される。以後、漢字文化圏である日本・中国・韓国では、両語ともに「要理書」「教理書」などと訳された。現在は、一般的に「カテキズム」を用いる。よって、本論文では「カテキズム」を「信仰教育のテキスト」の意で用いることとする。

【研究背景】

16世紀から18世紀にかけて日本・中国・韓国に、ヨーロッパからキリスト教(カトリック)が伝えられた。宣教師たちは宣教のために、命をかけて渡来し、カテキズムを書き残した。カテキズムの形態は、地域と文化によって異なる。それぞれに伝承された内容は時代を反映しており、かつ東アジアにおける東西文化交流の証しとなっている。しかし、3国のカテキズムの関係性については、ほとんど研究がなされていない。2017年、日本・中国・韓国のキリスト教文化と歴史を理解するために、3国で使用された共通のカテキズムの存在を確認し、比較研究を行った。その結果、中国版と韓国版の相違点はそれほどなかったが、日本版は多くの相違点があり、日本の文化や当時の宣教状況に合わせて改訂が行われていたことが分かった。しかし、比較対象にしたカテキズムを除く、3国のカテキズムの関係性については、十分に明らかにす

ることができなかった。

本論文では、3国における代表的なカテキズムを取り上げ、その受容から変遷までを比較対照し、カテキズムが3国に広がる過程を明らかにしたい。カテキズムの編纂理由、項目の順番と内容、社会的影響などを比較研究することは、3国のキリスト教文化を理解する1つの礎となり得るだろう。

【研究目的】

第1に3国におけるカテキズムの受容と変遷の過程を整理すること、第2に3国のカテキズムの共通点と相違点を明らかにすること、第3に3国のカテキズムの関係性を明らかにすることの3点である。

【研究方法】

第1の目的は、3国におけるカテキズムを「受容期」と「変遷期」に分け、その過程を整理することによって、明らかにする。「受容期」は日本版『日本のカテキズモ』・中国版『天主実義』・韓国版『주교요지』(主教要旨)を、「変遷期」はイエズス会系の日本版『どちりいなきりしたん』・中国版『天主聖教啓蒙』・韓国版『성교요리문답』(聖教要理問答)と、パリ外国宣教会系の中国版『聖教要理』・日本版『聖教要理問答』・韓国版『성교요리』(聖教要理)を研究対象とする。6書によって、「受容期」「変遷期」それぞれの過程を整理する。

第2の目的は、イエズス会系カテキズムの日本版『どちりいなきりしたん』・中国版『天主聖教啓蒙』・韓国版『성교요리문답』(聖教要理問答)と、パリ外国宣教会系カテキズムの中国版『聖教要理』・日本版『聖教要理問答』・韓国版『성교요리』(聖教要理)を、それぞれ比較対照し、その共通点と相違点について明らかにする。

第3の目的は、第1・第2の結果を踏まえて、3国におけるカテキズムの関係性を明らかにする。

【結論】

第1の目的、3国におけるカテキズムの受容と変遷の過程を整理すること。

「受容期」カテキズム、『日本のカテキズモ』・『天主実義』・『주교요지』(主教要旨)は、3国にカトリックが受容され、発展しつつある初期に作成され用いられたという歴史的な共通点がある。また、それだけではなく、3国のカテキズムの性格は、他宗教を排斥するという点で非常に似ている。『日本のカテキズモ』は、第一巻「第四講」「第五講」で「カミ」「ホトケ」「シャカ」「アミダ」を取り上げて神道・仏教を、『天主実義』は下巻「第五篇」で仏教と道教を論駁した。『주교요지』(主教要旨)は、上篇の「十七」で道教を、「十八」から「二六」にかけて仏教を、「二七」で民間信仰を論駁している。このように異なる宗教が共存する3国で、宣教師たちはそれらの宗教を理解した上で、合理的に論駁すると同時に、キリスト教の教えを説明する必要があったと考えられる。1566年に刊行されたカテキズムのスタンダードと言える『ローマ・カテキズム』は、「信徒信条」「秘跡」「十戒」「祈り」を中心にキリスト教の基本的な教え

を説明している。『日本のカテキズモ』はキリスト教の基本的な教えである「秘跡」「十戒」について触れているが、『天主実義』・『쥬교요지』（主教要旨）は「秘跡」「十戒」に触れていない。それは、カテキズムの対象層が、それぞれ違うからであろう。『日本のカテキズモ』は「イルマン」「神学生」、『天主実義』は「中国の知識層」「儒学者」、『쥬교요지』（主教要旨）は「一般民衆」を対象にしている。よって、『日本のカテキズモ』が、『天主実義』・『쥬교요지』（主教要旨）より、基本的な教えに多く触れているのは当然であろう。つまり、「受容期」カテキズムは、3国それぞれに合う独自内容で構成されているのである。

「変遷期」カテキズムは、両会に分け考察した。イエズス会系の日本版『どちりいなきりしたん』・中国版『天主聖教啓蒙』は、マルコス・ジョルジェ著『Doctrina Christã』の流れをくむことが分かった。韓国版『성교요리문답』（聖教要理問答）については、別系統と思われる。パリ外国宣教会系の中国版『聖教要理』・日本版『聖教要理問答』・韓国版『성교요리』（聖教要理）は、ジャン・バセ著『天主聖教要理問答』の流れをくむことが分かった。いずれも、キリスト教の基本的な教えを中心に説明している。

第2の目的、3国のカテキズムの共通点と相違点を明らかにすること。

まず、3国のイエズス会系カテキズムを比較した結果、日本版『どちりいなきりしたん』と中国版『天主聖教啓蒙』は、ほぼ一致していることが分かった。しかし、2書と韓国版『성교요리문답』（聖教要理問答）の順序や構成は大きく異なっていた。さらに、中国版『聖事問答』の改訂版『聖教要理問答』を底本とした韓国版の第1部「령세문답」（領洗問答）の問答内容を項目化し、日本版・中国版と比較した結果、順序や構成に著しい差異が見られた。また、各書の最初の問答からは、それぞれ享受者を想定していることが分かった。日本版と中国版は洗礼を受けた「信者」を対象にしている。対して、韓国版は「あなたは何のために、聖教に進むのか」と問うていることから、洗礼を受けた「信者」だけでなく、これから洗礼を希望する「洗礼志願者」を読者として、想定していたと考えられる。

次に、3国のパリ外国宣教会系カテキズムを比較した結果、日本版『聖教要理問答』の場合は日本の事情に合う改訂が十分に行われたが、韓国版『성교요리』（聖教要理）の場合は中国版『聖教要理』をほぼそのまま訳していたことが分かった。さらに、日本版の問答数が異なる17項目の中で、1項目は内容上の違いがあり、2項目は表現上の問題で省略され、残り14項目は内容上の違いはないが、ただ省略されたのみであることが分かった。なお、日本版はカトリックの教えを初めて接する日本人のために、中国版と韓国版よりは穏やかな表現を用いて改訂が行われている。

第3の目的、3国のカテキズムの関係性を明らかにすること。（次ページの図、参照）

イエズス会系カテキズムを検討した結果、日本版『どちりいなきりしたん』・中国版『天主聖教啓蒙』の内容に大きな違いはなく、1566年リスボンで刊行された『Doctrina Christã』を底本にしていることが分かった。また、従来の研究では、中国版『聖事問答』の「領洗問答」（洗礼問答）がロチャ神父による編訳であると指摘していたが、比較の結果、ロチャ神父が著した中国版『天主聖教啓蒙』の改訂版が中国版『聖事問答』である可能性は、非常に低いと考えられる。というのは、韓国版『성교요리문답』（聖教要理問答）の第1部「령세문답」（領洗

問答) と、中国版『天主聖教啓蒙』との共通点が見られなかったからである。つまり、中国版『聖事要理』が、中国版『天主聖教啓蒙』と全く別系列のカテキズムである可能性が高い。よって、両書の関係については、切り離して示す。

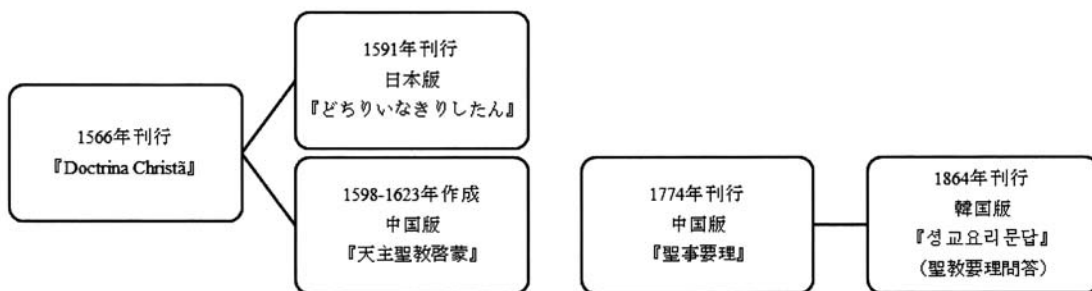
パリ外国宣教会系カテキズムを検討した結果、中国版『聖教要理』は、1689年中国に入学し、1702年から四川で宣教を行ったパリ外国宣教会のジャン・バセ神父が著した中国版『天主聖教要理問答』の内容を一部採用していることが分かった。

中国版『天主聖教要理問答』を基準に、中国版『聖教要理』、1919年中国四川版『聖教要理』の問答内容を比較すると、「天主義解」(6問答)・「三位一體」(7問答)・「天主降生」(3問答)、すなわち3項目16問答が一致していた。つまり、中国版『聖教要理』は四川で用いられていたパリ外国宣教会系カテキズムであることに間違いはない。

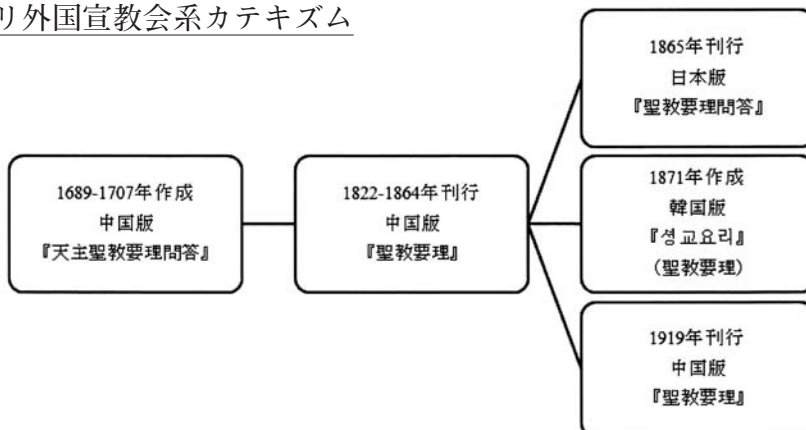
日本版『聖教要理問答』は、中国版『聖教要理』をもとに作成された。従来の研究では、イエズス会系の中国版『聖教要理問答』が日本版『聖教要理問答』の底本であるとされていたが、その内容を検証した結果、パリ外国宣教会系カテキズムの内容・項目とほとんど一致していた。よって、パリ外国宣教会系カテキズムと言えらるだろう。

韓国版『성교요리』(聖教要理)は、中国版『聖教要理』を底本としている。韓国版は刊行されておらず、筆写本として伝えられている。韓国で活動していたパリ外国宣教会の宣教師たちは、多くの内容が含まれ、問答数が多い大問答書であるパリ外国宣教会系の韓国版『성교요리』(聖教要理)を新たに使用しなかった。それよりも、信者たちが必ず覚えていなければならないことを「洗礼・告解・聖体・堅信」という4つの教えで、簡単に述べているイ

・ イエズス会系カテキズム



・ パリ外国宣教会系カテキズム



エズス会系の韓国版『성교요리문답』(聖教要理問答)を用いた方が、韓国カトリック信者たちが馴染み、韓国の事情に適切であったと判断したのではないかと考えている。

以上、検証結果をもとに下表のようにまとめた。これにより、3国のカテキズムの関係性は明らかになったと思われる。

【主な引用・参考文献】

- ・ 亀井孝、H. チースリク、小島幸枝著『日本イエズス会版キリシタン要理』岩波書店、1983
- ・ 費頼之著、馮承鈞訳『在華耶穌会士列伝及書目』中華書局出版、1995
- ・ 韓國教會史研究所編『韓國教會史研究資料第一五輯』韓國教會史研究所、1985

《論文審査の結果の要旨》

カトリック教会の基本的教えを記すものが、Catechismus、Doctrina と呼ばれるものである。日本語では、「教理書」、「要理書」と訳されている。

同じ漢字文化圏、仏教文化圏にあり、隣接する中国・韓国・日本においては時期と経緯は異なるが、イエズス会とパリ外国宣教会によるキリスト教布教が行われた。

第1章においては、それぞれの国でキリスト教布教のテキストとして、Catechismus あるいは Doctrina が、これら宣教修道会の関係する印刷所で出版されていることに着目し、3国の母国語で刊行された Catechismus を比較研究するために3つの目的を設定している。

第1は、3国におけるカテキズムの受容と変遷の過程を整理すること。第2は、3国のカテキズムの共通点と相違点を明らかにすること。第3に、3国のカテキズムの関係性を明らかにすることである。この目的設定により、問題の所在がはっきりし、全体の論述が整理されている。

先行研究としては、2国間の教理書の比較研究は行われているが、3か国の「カテキズム」の比較研究がまだなされていないので、独自の新しい視点である。

第2章では、研究方法として、まず、16世紀に始まるイエズス会による布教の時代をカテキズムの受容期とし、18・19世紀のパリ外国宣教会による時代を変遷期として、代表的カテキズムを比較検討している。1566年トリエント公会議後の再生カトリック教会のカテキズムのスタンダードといえる『カテキズム・ロマーノ』はすでにカトリック世界にいる信徒のためにカトリックの基本的教えを説いているが、ヨーロッパと異なる宗教が共存する受容期に作成された歴史的共通性をもつ3国のカテキズム—『日本のカテキズモ』、『天主実義』、『主教要旨』—は、カトリックの教義を教えるだけでなく、神道・仏教、儒教と道教、あるいは民間信仰を論破する共通性と独自性の特徴を見出している。

第3章では、3国におけるカテキズムの変遷を主題として論じている。イエズス会系カテキズム日本版『どちりいなきりしたん』、中国版『天主聖教啓蒙』韓国版『聖教要理問答』、パリ外国宣教会系カテキズム中国版『聖教要理』、日本版『聖教要理問答』、韓国版『聖教要理』をインターネット閲覧、あるいは影印本によって内容の比較を行い、その変遷を辿っている。その結果、イエズス会系カテキズムは、ジョルジェの『Doctrina Christā』を底本とするという、先行研究とは異なる新しい見解を示している。パリ外国宣教会系カテキズムは、1702年から四川で宣教を行った同会ジャン・バセが著した『天主聖教要理問答』の内容を一部採用し、さらに1803年に重慶で開催された「四川シノドス」で採決された内容を強く反映した『聖教要理』であること、内容の比較から1919年四川版『聖教要理』の改訂版であることを確認している。また、1865年日本版『聖教要理問答』、1871年韓国版『聖教要理』が、パリ外国宣教会ジャン・バセの著に四川シノドスの内容を反映させたものであること、しかし、韓国版は順序や構成に著しい違いがあることを指摘し、その違いは、日本版、中国版は、洗礼を受けた「信者」を対象としているのに対し、韓国版は信者だけでなく「洗礼志願者」を読者として想定していたこ

とから違いが生じているとの結論を導き出している。

第4章では、3国で用いられたカテキズムの関係性を考察し、これらの研究によって、筆者は、イエズス会系中国版『聖教要理問答』が日本版『聖教要理問答』の底本であるという従来の説に対し、パリ外国宣教会系中国四川版『聖教要理』であるとの結論を出している。

以上、本論文は、多くの先行研究および参考文献に加え、新たに発掘した新史料も数点あり、それらの膨大な史料を丁寧に読み込み、考察したことによって、非常に興味ある新しい見解を導き出しており、博士論文として十分認められるレベルにあることを3名の審査委員が異議なく認めた。

